

新年のごあいさつ

登別市議会議員
沼田 一夫



新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、登別市議会を代表して、市民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。
市民の皆さまには、希望にあふれた新春をお迎えのことと存じ、心よりお慶びを申し上げます。
旧年中は、議会活動に対し特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
昨年は、国内外とも激動の一年でありました。米国ではオバマ大統領が誕生し、国内では8月に行われた衆議院総選挙により、政権交代がなされ、新しい政府が誕生しましたが、一昨年のリーマンショックの影響がまだまだ覚めやらず、日本経済を取り巻く環境はさらに悪化した状況が続き、円高やデフレなど、さらに雇用不安も解消されず、先行き不透明な経済情勢となっております。一方、地方財政もその影響を受け、厳しい行財政運営を強いられていることは、ご存知のとおりであります。
このような中で、わたくしども市議会は行政に対するチェック機関としての体制強化を図りながら、活力ある登別市実現に向け、『市民と協働する議会』を目指し、今後も全力で取り組んで参る所存でございます。
市民の皆さまからのさらなるご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。
結びに、市民の皆さまにとりまして、今年もご健勝で明るく幸せな年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

登別市長
小笠原 春一



新年あけましておめでとうございます。
市民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
昨年は、医療費助成事業に係る高額療養費の請求に一部不適切な事務があったことなど市民の皆さまに、ご心配とご迷惑をお掛けした一年でありました。
また、世界的な金融資本市場の混乱による景気の悪化や長引く雇用の不安など、市を取り巻く情勢は暗い話題ばかりのように感じましたが、登別温泉に観光の拠点となる『のぼりべつインフォメーションプラザ』がオープンしたことや登別厚生年金病院が存続に向け大きく前進したこと、また、登別観光協会の若手による新たな取り組み『鬼の台所市』が開催されたことや市の事務事業を市民の視点で見直す『登別市事業仕分け』が試行されたことなど『市民力』を感じさせられるとともに『協働のまちづくり』への新たな歩みを進めた一年でもありました。
今年は、市制施行40周年という節目の年を迎えるとともに市民活動の拠点である『市民活動センター』がオープンします。
市は『協働のまちづくり』を皆さまとともに進めるため、すべての職員がそれぞれの役割と責任を自覚し、一丸となって職務に取り組むなど、信頼回復に努めるとともに、市民と企業、市がともに手を携え助け合いながら、まちづくりに取り組んでまいります。
本年が市民の皆さまにとって、幸多き年であることを祈念し新年のごあいさつとします。

